

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1

医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、必ずしも期待される有益な効果（薬効）のみをもたらすとは限らず、好ましくない反応（副作用）を生じる場合もある。
- b 医薬品医療機器等法では、異物の混入、変質等があってはならないと定めている。
- c 医薬品に対しては、製造販売後安全管理基準として Good Vigilance Practice (GVP) が制定されている。
- d 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであり、高い水準で均一な品質が保証されているため、市販後に承認基準が見直されることはない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問2

医薬品のリスク評価に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の効果とリスクは、薬物曝露時間と曝露量との和で表現される用量-反応関係に基づいて評価される。
- b 医薬品の安全性に関する非臨床試験の基準として Good Laboratory Practice (GLP) が制定されている。
- c 医薬品は、医薬品毒性試験法ガイドラインに沿って、毒性試験が厳格に実施されていることから、投与量が少量であれば、発がん作用を生じることはない。
- d 動物実験で医薬品の安全性が確認された後、ヒトを対象とした臨床試験が行われる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問3

健康食品に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品医療機器等法では、身体構造や機能に影響する効果を表示することができる食品が規定されている。
- b 「栄養機能食品」については、各種ビタミン、ミネラルに対して「栄養機能の表示」ができる。
- c 「機能性表示食品」は、疾病リスクの低減を図る旨を表示することができる。
- d 古くから特定の食品摂取と健康増進との関連は関心が持たれており、「薬（医）食同源」という言葉もある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問4

免疫及びアレルギー（過敏反応）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 通常の免疫反応において、炎症やそれに伴って発生する痛み、発熱等は、人体にとって有害なものを体内から排除するための必要な過程である。
- b アレルギーは、医薬品の薬理作用とは関係なく起こり得るものである。
- c アレルギーには体質的な要素はあるが、遺伝的な要素はない。
- d アレルゲンとなり得る添加物として、黄色4号（タートラジン）、カゼイン、亜硫酸塩（亜硫酸ナトリウム、ピロ硫酸カリウム等）が知られている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問5

医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 副作用は、血液や内臓機能への影響のように、直ちに明確な自覚症状として現れないこともある。
- b 一般用医薬品は、その使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先され、その兆候が現れたときには基本的に使用を中止することとされている。
- c 一般用医薬品の販売に従事する専門家は、購入者等から副作用の発生の経過を十分に聴いて、その後の適切な医薬品の選択に資する情報提供を行うほか、副作用の状況次第では、購入者等に対して、速やかに適切な医療機関を受診するよう勧奨する必要がある。
- d 医薬品を使用してアレルギー（過敏反応）を起こしたことがある人は、その原因となった医薬品に対して免疫があるため、次回から使用しても問題はない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問6

医薬品に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の不適正な使用には、使用する人の誤解や認識不足に起因するものと医薬品を本来の目的以外の意図で使用するものがある。
- b 選択された医薬品が適切ではなく、症状が改善しないまま使用し続けている場合、有害事象を招く危険性が増す。
- c 小児への使用を避けるべき医薬品でも、大人用のものを半分にして、小児に服用させれば、有害事象につながるおそれはない。
- d 人体に直接使用されない医薬品は、有害事象につながるおそれはない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問7

医薬品の相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の相互作用は、薬理作用をもたらす部位においてのみ起こる。
- b 医療機関で治療を受けている場合は、一般用医薬品を併用しても問題ないかどうかについて、治療を行っている医師又は歯科医師若しくは処方された医薬品を調剤する薬剤師に確認する必要がある。
- c 副作用や相互作用のリスクを減らす観点から、緩和を図りたい症状が明確である場合には、なるべくその症状に合った成分のみが配合された医薬品が選択されることが望ましい。
- d 飲み薬については、食品と体内で相互作用を生じることが想定されるが、外用薬や注射薬であれば、食品と相互作用を生じることはない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問8

一般用医薬品の販売に従事する登録販売者の対応に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 母乳を与える女性（授乳婦）が便秘の症状を訴えていたことから、センノシドを主成分とする医薬品を勧めた。
- 2 一般用医薬品の購入者に対して、使用する前には、添付文書や製品表示を読む必要があると伝えた。
- 3 カフェインを含む総合感冒薬の購入者に対して、コーヒーなどのカフェインを含む食品と一緒に服用すると、カフェインの過剰摂取となる可能性があることを伝え、注意を促した。
- 4 肩こり等に用いられるメトカルバモールを含有する医薬品の購入者に対して、副作用として眠気、めまい、ふらつきが現れることがあるため、服用後は乗物又は機械類の運転操作はしないよう伝えた。

問9

第1欄の記述は、医薬品の使用上の注意の記載に関するものである。()の中に入れるべき字句は第2欄のどれか。

第1欄

医薬品の使用上の注意において、幼児という場合には、およその目安として、()未満とされている。

第2欄

- 1 1歳
- 2 4歳
- 3 7歳
- 4 9歳
- 5 12歳

問10

小児における医薬品の使用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 小児は、血液脳関門が未発達であるため、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすい。
- 2 小児は、肝臓や腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の代謝・排泄に時間がかかり、作用が強く出過ぎたり、副作用がより強く出ることがある。
- 3 サリチルアミドを含むかぜ薬については、小児で水痘(水疱瘡)にかかっているときは使用を避ける必要がある。
- 4 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。

問 11

高齢者における医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 基礎疾患を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。
- b 基礎体力や生理機能の衰えの度合いの個人差が大きいことから、個々の状況に即して、適切に情報提供や相談対応がなされることが重要である。
- c 医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合や、細かい文字が見えづらい場合があるため、情報提供や相談対応において特段の配慮が必要となる。
- d 医薬品の使用上の注意においては、おおよその目安として60歳以上を「高齢者」としている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 12

妊婦又は妊娠していると思われる女性における医薬品の使用等に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 解熱鎮痛薬は、妊婦又は妊娠していると思われる女性に関して、使用上の注意「相談すること」の項で注意喚起がなされている。
- 2 便秘薬には、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。
- 3 胎盤には、胎児の血液と母体の血液とが混ざらない仕組みがある。
- 4 ホルモンのバランスや体型の変化等により睡眠障害が生じている妊婦に対しては、睡眠改善薬を適用することが一般的である。

問 13

プラセボ効果（偽薬効果）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをプラセボ効果という。
- b プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）と不都合なもの（副作用）とがある。
- c プラセボ効果は不確実であり、それを目的として医薬品が使用されるべきではない。
- d プラセボ効果は、時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）が関与して生じる場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 14

医薬品の品質に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 一般用医薬品では、薬局又は店舗販売業において購入された後、すぐに使用されるとは限らないことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売することを考慮する必要がある。
- 2 医薬品が保管・陳列される場所については、清潔性が保たれるとともに、その品質が十分保持される環境となるよう留意する必要がある。
- 3 品質が承認等された基準に適合しない医薬品は販売が禁止されている。
- 4 医薬品は、適切な保管・陳列がなされれば、経時変化による品質の劣化は起こらない。

問 15

一般用医薬品の定義について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

一般用医薬品は、医薬品医療機器等法第4条第5項第4号で「医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する(a)が著しくないものであって、(b)その他の医薬関係者から提供された情報に基づく(c)の選択により使用されることが目的とされているもの(要指導医薬品を除く。)をいう。」と定義されている。

	a	b	c
1	作用	薬剤師	需要者
2	作用	登録販売者	需要者
3	作用	薬剤師	販売者
4	副作用	薬剤師	需要者
5	副作用	登録販売者	販売者

問 16

医薬品の販売等に従事する専門家が一般用医薬品を販売する時の情報提供に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 登録販売者は、生活者のセルフメディケーションに対して、第2類医薬品及び第3類医薬品の販売、情報提供等を担う観点から、支援していくという姿勢で臨むことが基本となる。
- 2 一般用医薬品の場合、必ずしも情報提供を受けた本人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。
- 3 家庭における常備薬として購入される場合は、すぐに使用されないため、情報提供を行う必要はない。
- 4 医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しい場合であっても、購入者側から医薬品の使用状況に係る情報をできる限り引き出し、可能な情報提供を行っていくためのコミュニケーション技術を身につけるべきである。

問17

サリドマイドに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリドマイド製剤は、1924年から強心薬として販売されていた。
- b 妊娠している女性が摂取した場合、サリドマイドは血液-胎盤関門を通過して胎児に移行する。
- c サリドマイド製剤は、血管新生を妨げる作用がある。
- d サリドマイド製剤による薬害事件は、日本においては、出荷停止、販売停止及び回収措置等の対応の遅さが問題視された。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問18

スモン及びスモン訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スモンの症状の一つである麻痺^ひは、上半身にも広がる場合があり、ときに視覚障害から失明に至ることもある。
- b スモンはキノホルム製剤を使用したことによる薬害であるが、このキノホルム製剤の中には、一般用医薬品として販売されていた製品もある。
- c スモン患者に対しては、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担等の措置が講じられた。
- d スモン訴訟の被告である国は、スモン患者の早期救済のためには、和解による解決が望ましいとの基本方針に立って、各地の地裁及び高裁において和解が勧められ、1979年9月に全面和解が成立した。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 19

H I V訴訟における和解確認書に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

和解確認書において、国（厚生大臣（当時））は、「再び本件のような医薬品による悲惨な被害を発生させるに至ったことを深く反省し、その原因についての真相の究明に一層努めるとともに、安全かつ有効な医薬品を国民に供給し、(a)や不良医薬品から国民の生命、(b)を守るべき重大な責務があることを改めて深く認識し、薬事法上医薬品の(c)のため厚生大臣に付与された各種権限を十分活用して、本件のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることがないよう、最善、最大の努力を重ねることを改めて確約する」としている。

	a	b	c
1	医療過誤	尊厳	安全性確保
2	医療過誤	健康	安全性確保
3	医薬品の副作用	尊厳	有効性確保
4	医薬品の副作用	健康	有効性確保
5	医薬品の副作用	健康	安全性確保

問 20

クロイツフェルト・ヤコブ病（以下「C J D」とする。）に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

C J D訴訟を一因として2002年に行われた薬事法改正に伴い、生物由来製品の安全対策強化、(a)による生物由来製品による(b)の創設等がなされた。これらのほか、C J D患者の入院対策・在宅対策の充実、C J Dの診断・治療法の研究開発、C J Dに関する正しい知識の普及・啓発、患者家族・遺族に対する相談事業等に対する支援、C J D症例情報の把握、(c)の移植の有無を確認するための患者診療録の長期保存等の措置が講じられるようになった。

	a	b	c
1	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	医薬品副作用被害救済制度	ヒト乾燥硬膜
2	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	感染等被害救済制度	ヒト乾燥硬膜
3	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	医薬品副作用被害救済制度	ウシ乾燥硬膜
4	独立行政法人地域医療機能推進機構	感染等被害救済制度	ヒト乾燥硬膜
5	独立行政法人地域医療機能推進機構	医薬品副作用被害救済制度	ウシ乾燥硬膜

主な医薬品とその作用

問 21

かぜ薬の配合成分とその配合目的との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	(配合成分)		(配合目的)
a	イソプロピルアンチピリン	—	発熱を鎮め、痛みを和らげる
b	デキストロメトルファン臭化水素酸塩	—	咳 ^{せき} を抑える
c	クレマスチンフマル酸塩	—	痰 ^{たん} の切れを良くする
d	グアイフェネシン	—	くしゃみや鼻汁を抑える

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 22

アスピリン（別名アセチルサリチル酸）に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 アスピリンは、他の解熱鎮痛成分に比較して胃腸障害を起こしにくいとされている。
- 2 アスピリンには血液を凝固しにくくさせる作用があるため、胎児や出産時の母体への影響を考慮して、出産予定日 1 2 週間以内の妊婦への使用を避けることとされている。
- 3 アスピリン喘息^{ぜん}は、アスピリン特有の副作用であり、他の解熱鎮痛成分では起こらない。
- 4 アスピリンは、ピリン系の解熱鎮痛成分である。

問23

第1欄の記述は、鎮痛の目的で用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第2欄のどれか。

第1欄

体力に関わらず、筋肉の急激な^{けいれん}痙攣を伴う痛みのあるもののこむらがえり、筋肉の^{けいれん}痙攣、腹痛、腰痛に適すとされる。ただし、症状があるときのみ服用にとどめ、連用は避ける。

まれに重篤な副作用として、肝機能障害のほか、間質性肺炎、鬱血性心不全や心室頻拍を生じることが知られており、心臓病の診断を受けた人では使用を避ける必要がある。

第2欄

- 1 桂枝加朮附湯 けいし かじゅつぶとう
- 2 薏苡仁湯 よくい にんとう
- 3 当帰四逆加呉茱萸生薑湯 とうき しぎやくか ごしゅゆしょうきょうとう
- 4 呉茱萸湯 ごしゅゆとう
- 5 芍薬甘草湯 しやくやくかんぞうとう

問24

眠気を促す薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ジフェンヒドラミン塩酸塩を含有する催眠鎮静薬を服用する場合は、飲酒を避ける必要がある。
- b プロモバレリル尿素は、反復して摂取しても依存を生じることはない。
- c 酸棗仁湯 さんそうにんとうは、体力中等度以下で、心身が疲れ、精神不安、不眠などがあるものの不眠症、神経症に適すとされるが、胃腸が弱い人、下痢又は下痢傾向のある人では、消化器系の副作用（悪心、食欲不振、胃部不快感等）が現れやすい等、不向きとされる。
- d 抑肝散 よくかんさんは、神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症 かん、歯ぎしり、更年期障害、血の道症に適すとされるが、心不全を引き起こす可能性がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 25

眠気防止薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 眠気防止薬は、一時的に精神的な集中を必要とするときに、眠気や倦怠感^{けん}を除去する目的で使用されるものである。
- b 小児用の眠気防止薬はないが、小・中学生の試験勉強に効果があると誤解されて誤用事故を起こした事例も知られており、15歳未満の小児に使用されることがないように注意が必要である。
- c かぜ薬やアレルギー用薬などを使用したことによる眠気を抑えるために眠気防止薬を使用することは適切ではない。
- d 細菌やウイルスなどに感染したときに生じる眠気は、生体防御の重要な一端を担っている病態生理的反応であり（睡眠により免疫機能が高まる。）、そのようなときに眠気防止薬で睡眠を妨げると、病気の治癒を遅らせるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 26

鎮咳去痰薬^{がい たん}の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ジヒドロコデインリン酸塩は、長期連用や大量摂取によって倦怠感^{けん}や虚脱感、多幸感等が現れることがあり、薬物依存につながるおそれがある。
- b 非麻薬性鎮咳成分^{がい}であるノスカピンは、延髄^{がいぞう}の咳嗽中枢に作用する。
- c カルボシステインは、気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳^{せき}や喘息^{ぜん}の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- d ブロムヘキシン塩酸塩は、気道の炎症を和らげることを目的として配合される。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 27

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ジフェニドール塩酸塩は、排尿困難の症状がある人や緑内障の診断を受けた人では、その症状を悪化させるおそれがある。
- b ジメンヒドリナートは、延髄にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示し、専ら乗物酔い防止薬に配合される抗ヒスタミン成分である。
- c アミノ安息香酸エチルは、胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐きけを抑えることを目的として配合されている場合がある。
- d メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く持続時間が短い。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 28

鎮咳去痰薬に配合される生薬成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 キョウニンは、バラ科のホンアズ、アズ等の種子を基原とする生薬で、体内で分解されて生じた代謝物の一部が延髄の呼吸中枢、咳嗽中枢を鎮静させる作用を示すとされる。
- 2 オウヒは、バラ科のヤマザクラ又はその他近縁植物の、通例、周皮を除いた樹皮を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- 3 バクモンドウは、ヒメハギ科のイトヒメハギの根を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- 4 シャゼンソウは、オオバコ科のオオバコの花期の全草を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。

問 29

口腔咽喉薬、うがい薬（含嗽薬）及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a トローチ剤やドロップ剤は、嘔み砕いて飲み込んでしまうと効果は期待できない。
- b セチルピリジニウム塩化物は、口腔内や喉に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを目的として用いられる。
- c グリチルリチン酸二カリウムは、喉の粘膜を刺激から保護する成分として配合されている場合がある。
- d クロルフェニラミンマレイン酸塩は、咽頭の粘膜に付着したアレルギーによる喉の不快感等の症状を鎮めることを目的として配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 30

胃の薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 メタケイ酸アルミン酸マグネシウムは、胃酸の中和作用のほか、胃粘膜にゼラチン状の皮膜を形成して保護する作用もあるとされる。
- 2 テプレノン[®]は、胃粘膜保護・修復成分として配合されている場合がある。
- 3 ピレンゼピン塩酸塩は、消化管の運動にはほとんど影響を与えずに胃液の分泌を抑える作用を示すとされる。
- 4 オウバクのような苦みのある生薬成分を含む健胃薬は、散剤をオブラートで包む等、味や香りを遮蔽する方法で服用することが適当である。

問 31

第1欄の記述は、健胃薬に配合されることがある生薬成分に関するものである。該当する生薬成分は第2欄のどれか。

第1欄

クマ科のヒグマその他近縁動物の胆汁を乾燥したものを基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられるほか、消化補助成分として配合される場合もある。

第2欄

- 1 リュウタン
- 2 ユウタン
- 3 レイヨウカク
- 4 ゴオウ
- 5 ケイヒ

問 32

胃腸に作用する薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ベルベリン塩化物は、腸粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめること（収斂）により、腸粘膜を保護することを目的として配合されている場合がある。
- b トリメブチンマレイン酸塩は、消化管（胃及び腸）の平滑筋に直接作用して、消化管の運動を調整する作用（消化管運動が低下しているときは亢進的に、運動が亢進しているときは抑制的に働く。）があるとされる。
- c タンニン酸アルブミンは、腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として配合されている場合がある。
- d ロペラミド塩酸塩は、腸管の運動を低下させる作用を示し、胃腸鎮痛鎮痙薬との併用は避ける必要がある。

- 1 (a、c) 2 (b、c) 3 (b、d) 4 (a、d)

問 33

瀉下薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 酸化マグネシウムは、腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促すことを目的として配合されている場合がある。
- b ヒマシ油は、比較的作用が穏やかなため、主に3歳未満の乳幼児の便秘に用いられる。
- c ビサコジルは、大腸のうち特に結腸や直腸の粘膜を刺激して、排便を促すと考えられている。
- d マルツエキスは、腸内容物に水分を浸透しやすくする作用があり、水分不足に起因する便秘に効果がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問 34

胃腸鎮痛鎮痙薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 複数の胃腸鎮痛鎮痙薬が併用された場合、泌尿器系や循環器系、精神神経系などに対する作用（副作用）が現れやすくなるため、胃腸鎮痛鎮痙薬を使用している間は、他の胃腸鎮痛鎮痙薬の使用を避けることとされている。
- b パンペリン塩酸塩は、抗コリン成分であり、胃痛、腹痛、さしこみ（疝痛、癩）を鎮める作用を示すほか、胃酸過多や胸やけに対する効果も期待して用いられる。
- c オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用もあるとされている。また、妊娠中や小児における安全性が確立されている。
- d ブチルスコポラミン臭化物については、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることが知られている。

- 1 (a、c) 2 (b、c) 3 (b、d) 4 (a、d)

問 35

浣腸薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 浣腸薬は、便秘の場合に排便を促すことを目的として、小腸及び大腸内に適用される医薬品である。
- b 乳幼児では、浣腸薬の安易な使用を避けることとされている。
- c 腹痛が著しい場合や便秘に伴って吐きけや嘔吐が現れた場合には、急性腹症(腸管の狭窄、閉塞、腹腔内器官の炎症等)の可能性があり、浣腸薬の配合成分の刺激によってその症状を悪化させるおそれがある。
- d 注入剤を半量等使用した場合、残量を密封して冷所に保存すれば、感染のおそれがないので再利用できる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 36

駆虫薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 駆虫薬は、消化管内容物の消化・吸収に伴って駆虫成分の吸収が高まることから、食後に使用することとされているものが多い。
- 2 ピペラジンリン酸塩は、アセチルコリン伝達を妨げて、回虫及び蟯虫の運動筋を麻痺させる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- 3 カイニン酸は、回虫に痙攣を起こさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- 4 サントニンは、回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。

問37

強心薬に配合される生薬成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。
- b 一般用医薬品では、センソの1日用量が5mg以下となるよう用法・用量が定められており、それに従って適正に使用される必要がある。なお、通常用量においても、悪心（吐きけ）、嘔吐の副作用が現れることがある。
- c ジャコウは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。
- d リュウノウは、心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用（強心作用）があるとされる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問38

血中コレステロール及び高コレステロール改善薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a リポタンパク質は比重によっていくつかの種類に分類されるが、そのうち低密度リポタンパク質（LDL）は、末梢組織のコレステロールを取り込んで肝臓へと運ぶリポタンパク質である。
- b ポリエンホスファチジルコリンは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- c ビタミンB2（リボフラビン酪酸エステル等）は、コレステロールの生合成抑制と排泄・異化促進作用、中性脂肪抑制作用、過酸化脂質分解作用を有すると言われている。
- d ビタミンE（トコフェロール酢酸エステル）は、LDL等の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質（HDL）産生を高める作用があるとされる。

1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 39

貧血用薬（鉄製剤）及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 貧血は、その原因によりビタミン欠乏性貧血、鉄欠乏性貧血等に分類されるが、鉄製剤で改善できるのは、鉄欠乏性貧血のみである。
- b 鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するには、食後に服用することが望ましい。
- c 服用の前後30分以内に緑茶やコーヒーを摂取すると、それらに含まれているタンニン酸によって、鉄の吸収が良くなる。
- d コバルトは、糖質・脂質・タンパク質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 40

循環器用薬に配合されるユビデカレノンに関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する（ a ）の働きを助ける成分で、摂取された栄養素からエネルギーが産生される際に（ b ）とともに働く。

（ c ）の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされる。

	a	b	c
1	ホルモン	ビタミンC	平滑筋
2	ホルモン	ビタミンB群	心筋
3	酵素	ビタミンB群	平滑筋
4	酵素	ビタミンC	心筋
5	酵素	ビタミンB群	心筋

問 41

痔及び痔疾用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 直腸粘膜と皮膚の境目となる歯状線より下部の、肛門の出口側にできた痔核を脱肛と呼ぶ。
- b 痔に対しては、痔疾用薬の使用と併せて、痔を生じた要因となっている生活習慣の改善等が図られることが重要である。
- c 外用痔疾用薬においては、痔に伴う痛み・痒みを和らげることを目的として、硫酸アルミニウムカリウム等の局所麻酔成分が用いられることがある。
- d 外用痔疾用薬においては、痔疾患に伴う局所の感染を防止することを目的として、クロルヘキシジン塩酸塩等の殺菌消毒成分が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 42

婦人薬及びその適用対象となる体質・症状に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 月経痛について、大量の出血を伴う場合には、子宮内膜症などの病気の可能性がある。
- 2 内服で用いられる婦人薬は、比較的速やかに作用が出現し、短期間の使用で効果が得られるとされる。
- 3 月経不順については、過度のストレスや、不適切なダイエット等による栄養摂取の偏りによって起こることがある。
- 4 更年期障害の不定愁訴とされるのぼせやほてり等の症状については、心臓や甲状腺の病気でも起こることがあり、そのような原因が見いだされた場合には、その治療が優先される必要がある。

問 43

第1欄の記述は、婦人薬として用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第2欄のどれか。

第1欄

比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷えなどを訴えるものの、月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身（打撲症）、しもやけ、しみ、湿疹・皮膚炎、にきびに適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）では不向きとされる。

第2欄

- 1 温経湯 うんけいとう
- 2 加味逍遙散 かみしょうようさん
- 3 桂枝茯苓丸 けいしぶくりようがん
- 4 四物湯 しもつとう
- 5 柴胡桂枝乾姜湯 さいこけいしかんきょうとう

問 44

アレルギー（過敏反応）及び内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルギー症状を軽減するには、日常生活におけるアレルゲンの除去・回避といった根源的な対応が図られることが重要である。
- b 内服アレルギー用薬は、鼻炎用点鼻薬のような外用薬と同じ成分又は同種の作用を有する成分が重複することがあるが、投与経路が異なるため、併用しても特に問題はない。
- c 一般用医薬品の内服アレルギー用薬は、長期の連用は避け、5～6日間使用しても症状の改善がみられない場合には、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。
- d 皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、トラネキサム酸等の抗炎症成分が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 45

鼻炎用点鼻薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 鼻炎用点鼻薬の剤形は、スプレー式で鼻腔内に噴霧するものが多い。
- b 鼻炎用点鼻薬は、鼻炎の原因そのものを取り除くことができる。
- c くしゃみや鼻汁等の症状を緩和することを目的として、ケトチフェン等の抗ヒスタミン成分が配合されている場合がある。
- d アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が収縮して鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 46

眼科用薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 点眼薬の容器に記載されている使用期限は、未開封の状態におけるものであり、容器が開封されてから長期間を経過した製品は、使用を避けるべきである。
- 2 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものはない。
- 3 別の人が使用している点眼薬は、容器の先端が睫毛（まつげ）に触れる等して中身が汚染されている可能性があり、共用することは避けることとされている。
- 4 サルファ剤は、ウイルスや真菌の感染に対する効果が期待できる。

問 47

眼科用薬の配合成分とその配合目的との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	(配合成分)		(配合目的)
a	ナファゾリン塩酸塩	—	目の充血を除去する
b	イプシロン-アミノカプロン酸	—	目の炎症を改善する
c	クロモグリク酸ナトリウム	—	目の調節機能を改善する
d	ネオスチグミンメチル硫酸塩	—	結膜や角膜の乾燥を防ぐ

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 48

外皮用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ステロイド性抗炎症成分をコルチゾンに換算して 1 g 又は 1 mL 中 0.025mg を超えて含有する製品では、特に長期連用を避ける必要がある。
- b ヨウ素系殺菌消毒成分は、外皮用薬として用いた場合でも、まれにショック（アナフィラキシー）のような全身性の重篤な副作用を生じることがある。
- c 非ステロイド性抗炎症成分（NSAIDs）であるジクロフェナクナトリウムは、皮膚の下層にある骨格筋や関節部まで浸透してプロスタグランジンの産生を抑える作用を示す。
- d 角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善することを目的として、酸化亜鉛が用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 49

外用薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ハッカ油は、皮膚に温感刺激を与え、末梢血管を拡張させて患部の血行を促す効果を期待して配合されている場合がある。
- b ヘパリン類似物質は、患部局所の血行を促すほかに、抗炎症作用や保湿作用も期待される。
- c インドメタシンには殺菌作用があり、皮膚感染症に対して効果が期待できる。
- d イオウは、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 50

みずむしの要因及び剤形の選択に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

みずむしは、(a) 菌という (b) 類の一種が皮膚に寄生することによって起こる疾患である。

一般的に、じゅくじゅくと湿潤している患部には、(c) が適すとされる。

	a	b	c
1	アクネ	真菌	軟膏又はクリーム
2	白癬 ^{せん}	細菌	液剤
3	アクネ	細菌	軟膏又はクリーム
4	白癬 ^{せん}	真菌	液剤
5	白癬 ^{せん}	真菌	軟膏又はクリーム

問 51

歯痛・歯槽膿漏薬の配合成分とその配合目的との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

(配合成分)		(配合目的)	
a	木クレオソート	—	齶蝕を生じた部分における細菌の繁殖を抑える
b	フィトナジオン	—	炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える
c	ビタミンE	—	歯周組織の血行を促す
d	カルバゾクロム	—	知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮める

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 52

禁煙及び禁煙補助剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の禁煙補助剤は長期間にわたって使用されるべきものではなく、添付文書で定められた期限を超える使用は避けるべきである。
- b うつ病と診断されたことのある人では、禁煙時の離脱症状により、うつ症状を悪化させることがあるため、一般用医薬品の禁煙補助剤の使用を避ける必要がある。
- c 禁煙を達成するには、本人の禁煙の意思に加えて、ニコチン離脱症状を軽減するニコチン置換療法が有効とされる。
- d 非喫煙者では、一般にニコチンに対する耐性がないため、ニコチンを含有する禁煙補助剤を誤って使用すると、吐きけ、めまい、腹痛などの症状が現れやすい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 53

ビタミンに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 妊娠3ヶ月以内の妊婦、妊娠していると思われる女性及び妊娠を希望する女性では、医薬品以外からの摂取を含め、ビタミンAの過剰摂取に留意する必要がある。
- 2 ビタミンB1は、目の乾燥感、夜盲症（とり目）の症状の緩和に用いられる。
- 3 ビタミンB12は、赤血球の形成を助け、また、神経機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- 4 ビタミンDの過剰症としては、高カルシウム血症、異常石灰化が知られている。

問 54

第1欄の記述は、滋養強壮保健薬に配合されることがある生薬成分に関するものである。該当する生薬成分は第2欄のどれか。

第1欄

ハトムギの種皮を除いた種子を基原とする生薬で、肌荒れやいぼに用いられる。

ビタミンB2主薬製剤やビタミンB6主薬製剤、瀉下薬等の補助成分として配合されている場合もある。

第2欄

- 1 ニンジン
- 2 ヨクイニン
- 3 ジオウ
- 4 オウギ
- 5 ショウマ

問 55

生薬成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a モクツウは、強壯、強精（性機能の亢進）等の作用を期待して用いられる。
- b ブシは生のままでは毒性が高いことから、その毒性を減らし有用な作用を保持する処理を施して使用される。
- c サンザシは、別名を高麗人参、朝鮮人参とも呼ばれ、その根を蒸したものを基原とする生薬をコウジンとすることがある。
- d レンギョウは、鎮痛、抗菌等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問 56

消毒薬及び殺菌消毒成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 次亜塩素酸ナトリウムは、金属腐食性があるとともに、プラスチックやゴム製品を劣化させることがある。
- b オキシドールは、揮発性で引火しやすく、また、広範囲に長時間使用する場合には、蒸気の吸引にも留意する必要がある。
- c 生息条件が整えば消毒薬の溶液中で生存、増殖する微生物もいる。
- d エタノールには粘膜刺激性があり、傷がある部分への使用は避けることとされている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 57

消毒薬の取扱い上の注意に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 日本薬局方に収載されているクレゾール石鹼液^{けん}は、原液を水で希釈して用いられるが、刺激性が強いため、原液が直接皮膚に付着しないようにする必要がある。
- b 原末や濃厚液を誤って飲み込んだ場合は、自己判断で安易に吐き出させることは避けることとされている。
- c アルカリ性の消毒薬が誤って目に入った場合は、直ちに中和剤を用いて中和することとされている。
- d 次亜塩素酸ナトリウムは、アルカリ性の洗剤・洗浄剤と反応して有毒な塩素ガスが発生するため、混ざらないように注意する必要がある。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 58

衛生害虫の種類と防除及び殺虫剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 蚊（アカイエカ、シナハマダラカ等）の幼虫（ボウフラ）の防除では、水系に殺虫剤を投入することになるため、生態系に与える影響を考慮して適切な使用を行う必要がある。
- b ハエ（イエバエ、センチクバエ等）は、赤痢菌、チフス菌、コレラ菌等の病原菌を媒介する。
- c ジクロールボスは、殺虫作用でなく、昆虫の脱皮や変態を阻害する作用を有する成分である。
- d ノミによる保健衛生上の害としては、主に吸血されたときの痒み^{かゆ}であるが、ノミは元来、ペスト等の病原細菌を媒介する衛生害虫である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 59

尿中の糖・タンパク値に異常を生じる要因に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の()内には同じ字句が入る。

泌尿器系の機能が正常に働いていて、また、血糖値が正常であれば、糖分やタンパク質は腎臓の(a)においてほとんどが再吸収される。

尿糖値に異常を生じる要因は、一般に(b)と結びつけて捉えられることが多いが、腎性糖尿等のように(b)を伴わない場合もある。尿中のタンパク値に異常を生じる要因については、腎臓機能障害によるものとして腎炎や(c)、尿路に異常が生じたことによるものとして尿路感染症、尿路結石等がある。

	a	b	c
1	尿細管	高血糖	ネフローゼ
2	糸球体	高血糖	膀胱炎 <small>ぼうこう</small>
3	尿細管	高血圧	膀胱炎 <small>ぼうこう</small>
4	集合管	高血糖	ネフローゼ
5	糸球体	高血圧	ネフローゼ

問 60

妊娠及び妊娠検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a じゅう 絨毛細胞が腫瘍化している場合には、妊娠していなくてもヒトじゅう 絨毛性性腺刺激ホルモン(hCG)が分泌され、妊娠検査薬の検査結果が陽性となることがある。
- b 妊娠しているかどうかを早い段階で知り、食事の内容や医薬品の使用に適切な配慮がなされるとともに、飲酒や喫煙、風疹や水痘(水疱瘡)などの感染症等を避けることは、母子の健康にとって重要である。
- c 妊娠検査薬は、妊娠が成立してから4週目前後の尿中ヒトじゅう 絨毛性性腺刺激ホルモン(hCG)濃度を検出感度としている。
- d 妊娠検査薬は、妊娠が成立していても、検査結果が陰性となることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正